

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4570201170
法人名	有限会社 未来企画
事業所名	グループホーム オルゴール
所在地	宮崎県都城市吉尾町111-1 (電話) 0986-38-0552
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101番地
訪問調査日	平成19年12月13日

【情報提供票より】(19年11月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 6 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 9 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	(50,000 円)	その他の経費(月額)	800 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/ <input checked="" type="checkbox"/> 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(11月15日現在)

利用者人数	18 名	男性 9 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名
要介護3	3 名	要介護4	7 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	83 歳	最低 69 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ふくしまクリニック 田中歯科医院 中央歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、周囲に各種商業施設、福祉系専門学校、公園などあり環境に恵まれている。利用者の状態や個性に応じてそれぞれに特徴を持たせた2ユニットのホームである。住み慣れた地域で安心して暮らせる社会づくりに貢献したいと開設時より意識して、地域との関わりを大切にしている。地元の祭りへの参加、ボランティアの積極的な受け入れ、職員の公民館で血圧測定等の協力など取り組んでいる。職員は生き甲斐、誇りのもてる職場を目指しており、利用者は穏やかな表情で生活されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題のうち、洗剤等注意の必要な物品の管理やテレビの細かい音量調整など生活環境は改善されている。食事に関しては、準備や後片付けなど入居者と一緒に行っているが検食として一人が同じ食事をとっているが職員が入居者と一緒と同じ食事を取るまでには至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組み、マンネリ化することなくケアの質の向上につなげたいという前向きな姿勢が感じられる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、年間計画を立て定期的に開催しており、ホームの状況や評価結果を報告することで参加者の理解と協力を得る機会となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	できるだけ面会に来ていただくようにし、意見や苦情等ないか聞いたり、話しやすい雰囲気づくりをしている。出された意見等についてはすぐに対応するようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議を地域との連携の要として、地域との連携づくりに取り組んでいる。施設内での行事には、民生委員、ボランティア、福祉専門学校の学生等も参加・協力が得られている。また外部の行事には看護師等が参加協力している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住み慣れた地域で安心して暮らせる社会」を基本理念に「家族や親しい人に囲まれてその人らしく暮らせる」「あきらめを希望にかえる介護」をめざして取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「真心慶福 真心を尽くそう！」を合言葉に、朝礼・ミーティング時に唱和し、また掲示し、運営理念の意識付けを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設の運動会には民生委員、近くの福祉専門学校の学生やボランティア等も参加している。地域の祭りにも参加している。公民館へ、スタッフがボランティアとして血圧測定に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受けることで業務を再確認する機会にしている。また外部評価を取り入れ事業の改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議のメンバーに、市の担当者、民生委員、家族代表、公民館長、包括支援センター職員、利用者も参加して定期的開催している。評価の結果や取り組み、意見交換等話し合うことでホームの理解がより深められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困った事項等、相談は市の担当者、支援センター等と連携を取り、解決をはかっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に声かけして、利用者の状況等話し合う機会を持っている。また、3か月に1回、ホームの情報誌「あんだんて」で利用者の暮らしぶりや連絡事項、行事の案内などを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に1か月に1回以上の面会をお願いし、その時に意見を聞き、サービスの質の向上のために何でも言って貰えるよう、雰囲気作りをしている。また玄関に意見箱を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の馴染みと安心のために、職員は同一のユニットに勤務する体制にしている。職員の離職はほとんどなく馴染みの関係が保たれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には公務で参加し、2ユニットのスタッフ会議等で報告して介護の質の向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡協議会には未加入であるが、研修会等に参加して交流を図り質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者との面談や施設見学等コミュニケーションを重ねて入居していただいている。		
受けて					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	これまでの生活環境や個性を理解し、利用者から学ぶ姿勢、自分の親を見るような心で対応するようにしている。介護度や症状に応じてユニットに特徴をもたせ、それぞれの特徴に合わせたケアをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活史や個性を尊重しながら、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の健康や暮らしぶりの細やかな記録と主治医、家族、本人、スタッフの意見等を配慮し、利用者の状況を把握し、より良い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回定期的にモニタリングや見直しを行っている。また状態の変化に応じて、例えば入浴時に2人介助で浴槽に浸かっていた利用者がシャワー浴に変更する等、現状に合った見直しがされている。		国の方針では毎月の定期的な見直しを提起しているので、それを目指して取り組みをすすめてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じて、車で畑に出かけ、野菜作りや収穫を共に行ったり、週に3回の訪問マッサージを取り入れたりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の送迎を原則にしなが、かかりつけ医の受診支援を行っている。		かかりつけ医の往診など医療連携をさらに深めてほしい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かつて、終末期近くまで見たことがある。家族の希望や条件を考慮し、前向きに検討中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いに注意している。個人の尊厳に留意し、個性のある利用者にも優しい言葉かけや思いやりのある態度でケアしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の毎日例えば、午前や午後などその時によって変化する気分に応じて、見守りながら外に出る事やリクリエーション、カラオケなど、その人の状況に合った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑に野菜を採りに行ったり、買い物に行ったりしながら、食事作りにもその人なりの手伝いをしてもらい、楽しみながら生活できるよう支援している。職員は、検食を兼ねて当直者が一緒に同じ食事を摂っている。	○	職員と一緒に楽しみながら同じ食事をする事ができるよう工夫してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週に3回午前中であるが、隣のユニットの入浴日にも利用できるようにして、希望に合わせて入浴の支援ができるようにしている。		利用者のこれまでの暮らしぶりの情報をいかして、入浴の時間や方法など利用者の希望を引き出すような取り組みも行ってほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活のリハビリとして、一人で出来る事もいろいろとケアしながら行っている。共同生活の中での食事作り、野菜の収穫、お盆拭き等その人の生活歴や力を活かした楽しみごととしてしてもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族との連携で外出の機会を作ったり、利用者の希望で、衣類を買いに出かけたり、また畑の野菜作りはドライブを兼ねた外出の機会として楽しみにされており、日常的な外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道路に面した広い敷地の駐車場を進むと、木造1階建の北側に入り口玄関がある。数名に帰宅願望があり、安全面を考慮して玄関の内側は施錠している。	○	外出支援など取組まれているが、さらに工夫して鍵をかけないケアに取り組んでほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルが出来ている。年2回の防災訓練を実施している。連絡網を使って連絡し合う、非難訓練、消火器の使い方等を実施している。近くの川の水位に危険が予想される場合には、ネット上で確認ができる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者各人の健康チェック表に細やかな記録がされている。利用者の体調、訴えなどにも注意しながらのケアをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は不愉快にならない工夫をしている。常に五感を活かして、季節感のある飾りつけを行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物、仏壇、家具類、テレビ、ミシンなどを持ち込んで、本人が居心地よく過ごせる居室の配慮をしている。		